バス運転士による運賃着服事案の発生についてのご報告とお詫びについて

今般、弊社バス運転士4名が、一般路線バス乗務中にお客様から収受した運賃の一部を着服していたことが判明いたしました。お客様をはじめ関係の皆様からの信頼を裏切る行為であり、深くお詫び申し上げます。

公共交通を担う輸送事業者として、本事案を厳粛に受け止め、役職員一同、再発防止に向けて全力を挙げて取り組み、信頼回復に努めてまいります。

記

1 運賃着服事案について

(1) 事案概要

8月4日(日)に お客様から、メールで「本日乗車したバスの運転士が運賃箱を不正に操作し、大人230円の正規運賃設定を小児運賃120円に設定変更し、投入した大人運賃230円に対するお釣りを着服していた。」とのご指摘をいただきました。

ご指摘を受けて、社内で調査しましたところ、お客様からのご指摘のとおり、担当運転士が運賃箱を不正に操作し、釣銭として運賃箱から出た運賃を着服していたことが判明いたしました。

また、本事案の判明を受けてさらなる調査を実施した結果、当該運転士が別日にも運賃箱を不正に操作し運賃を着服していたこと及び当該運転士以外に3名の運転士が同様の手口で運賃を着服していたことが判明いたしました。

運転士4名の着服額の合計は、約86万円です。

(2) 着服した運転士への対応

運賃を着服していた運転士4名につきましては、社内規程に則り、厳正に処分を実施しました。

2 再発防止策について

この度の事態を重く受け止め、全運転士に対して、コンプライアンス教育をこれまで以上に強化することで、従業員のコンプライアンス意識の向上に努め、運賃の適切な取扱いを遵守させるべく、監督者による継続的な指導を実施するとともに、運賃箱データ及びドライブレコーダーを用いた査察を行うなどのより実効性のある対策を策定し、再発防止に全力を挙げて取り組んでまいります。

以上